



## 目次

はしがき	i
本書をお読みいただく方へ	iv

## 第7部 医学と医療

### 序説 医学と医療

坂口 志朗……………2

- 1 世紀転換期の特徴 ……………2
- 2 社会の中の医療 ……………4
- 3 医師の卒後教育の改革 ……………5
- 4 医療政策論 ……………6
- 5 各章の要点 ……………7

### 7-1 医療をめぐる紛争——市民、医療従事者、官僚、立法、法曹の動き

新田 清明……………15

- 1 医療紛争増大の背景 …………… 15
- 2 医療紛争の変遷 …………… 16
- 3 医療とインフォームド・コンセント …………… 20
- 4 医療紛争の増大に対する、司法・行政・立法の対応 …………… 23
- 5 新しい医療制度構築への模索 …………… 27

### 7-2 水俣病の現在史

津田 敏秀 頼藤 貴志……………33

- 1 半世紀を経てもなお解決しない水俣病問題 …………… 33
- 2 水俣病事件の政治解決の提起と頓挫 …………… 36
- 3 水俣病関西訴訟の最高裁判決から2010年へ…………… 40

4	水俣病問題における世紀転換期の5つの大きな動き	42
5	食中毒事件としての水俣病	47
6	まとめと展望	53

### 7-3 ハンセン病国家賠償訴訟の意味するもの

坂口 志朗……………60

1	ハンセン病問題の解決を導いたもの	60
2	国家賠償訴訟への道程	61
3	裁判等における医学者の役割	63
4	国の控訴断念・政府声明と事後の展開	65

### 7-4 B型・C型肝炎訴訟と肝炎対策基本法

坂口 志朗 美馬 聰昭……………70

1	医原性肝炎問題の歴史的概観	70
2	注射器B型肝炎訴訟	73
3	薬害C型肝炎訴訟	81
4	肝炎対策基本法の成立と将来への課題	87

### 7-5 生活習慣病からメタボリックシンドロームへ

吉岡 斉 吉岡 やよい……………95

1	予防的国民健康管理強化政策	95
2	生活習慣病の登場	97
3	「健康増進法」とその問題点	100
4	根拠不明のメタボリックシンドローム	103
5	特定健康診査・特定保健指導制度	105

### 7-6 人工透析の拡大とコスト削減問題

吉岡 斉 吉岡 やよい……………108

1	人工透析医療の時代区分	108
2	人工透析医療の恩恵と重荷	110
3	透析人口の増大と患者像の変化	111
4	医療スタッフの諸問題	114

---

5	人工透析医療のかかえる諸課題	116
---	----------------	-----

## 7-7 救急医療

坂口 志朗……………120

1	救急医療システム整備前史	120
2	救急救命士の誕生	121
3	救急医療システムの現状	123
4	小児救急医療と周産期救急医療の問題	125
5	救急医療システムの再構築	127

## 7-8 がんの診断と治療

坂口 志朗……………129

1	がんの診断と治療の変遷	129
2	がん診断の到達点	130
3	がん治療の到達点	134
4	緩和ケア	141
5	がん難民問題の解消へ	142

## 7-9 感染症対策の新展開

岩田 健太郎……………148

1	古くて新しい感染症対策	148
2	感染症対策の諸問題	151
3	新たな展開を見せる感染症	163
4	感染症対策に必要なシステム整備	166
5	まとめと展望	169

## 7-10 精神医学・医療への社会的認知の高まり

梅谷 薫……………176

1	「精神医学化」する社会	176
2	うつ病の急増と自殺者の増加	177
3	PTSD およびストレス関連疾患の増加	185
4	統合失調症への呼称変更と疾患の軽症化	187

---

5 課題と展望——「エビデンス」から「ナラティブ」へ .....	194
----------------------------------	-----

## 7-11 医師養成と医学教育

藤崎 和彦.....198

1 インターン問題と医学教育改革の胎動 .....	198
2 1県1医大構想とプライマリ・ケア教育 .....	201
3 医師数抑制への転換と「基本的医学教育」という考え方の導入...	206
4 21世紀の2大改革——共用試験と新医師研修制度 .....	209
5 医師不足問題の顕在化とその原因 .....	214

## 7-12 看護と介護における制度改革と人材養成

小山 千加代.....221

1 看護（医療）と介護（福祉）という2つの制度 .....	221
2 看護における制度改革と人材養成 .....	222
3 社会福祉制度改革と社会福祉士および介護福祉士の誕生 .....	228
4 まとめと課題 .....	233

## 7-13 医薬分業

申田 一樹.....235

1 医薬分業の意義について .....	235
2 医薬分業の歴史 .....	236
3 医薬分業の進展 .....	238
4 薬局機能と薬剤師の役割 .....	240
5 かかりつけ薬局の成熟に向けて .....	249
6 医薬分業の1990年代とは.....	250
7 薬事法と医薬品販売制度 .....	252
8 高齢社会の到来と薬剤師 .....	255

## 7-14 病院の変容

坂口 志朗.....257

1 第1次医療法改正による地域保健医療計画の功罪 .....	257
2 医療費抑制政策 .....	258

3	病院の二極分化——DPC 導入病院と療養型病床	262
4	病院情報システム	265
5	コミュニケーションの希薄化と第三者評価	272

## 7-15 ハイテク医療

坂口 志朗……………275

1	ハイテク医療とは	275
2	画像機器の高機能化と情報の保存	276
3	内視鏡治療の発展	277
4	冠血管インターベンションの実用化	279
5	分子標的治療の実用化	280
6	放射線治療の洗練化	282
7	先端医療と保険適用、先進医療制度の役割	284
8	課題と展望	287

## 7-16 生殖技術の新展開

林 真理……………291

1	ART の広がり和社会問題化	292
2	社会的合意形成に向けて——厚生省審議会の動向	298
3	法制化の準備と挫折	304
4	「無法状態」の出現——「自由化」された生殖医療	307
5	課題と展望	310

## 7-17 IT 機器による障害者支援

溝口 元……………311

1	障害者支援におけるパソコン	311
2	障害者支援に関する法と予算	312
3	視覚障害者支援とIT	314
4	聴覚障害者支援とIT	315
5	就労支援の場合	316
6	地域・官界の動向	317

## 7-18 高齢者医療と科学技術

坂口 志朗……………321

- 1 老年症候群 ……………321
- 2 高齢者に多い病気と対処法 ……………322
- 3 支援技術と福祉用具、共用品 ……………325
- 4 在宅で使われるさまざまな医療機器と福祉機器 ……………327
- 5 まとめと展望 ……………329

## コラム ホスピス・緩和ケア

小山 千加代 ……………331

## 第8部 生命・環境・安全・防災

### 序説 生命・環境・安全・防災

吉岡 斉……………336

- 1 第8部の守備範囲 ……………336
- 2 世紀転換期の現代的状況の概観 ……………339
- 3 世紀転換期における重要な問題群 ……………342
- 4 各章の要点 ……………346

### 8-1 地球温暖化防止政策

吉岡 斉……………352

- 1 地球温暖化防止政策の歴史的的重要性 ……………352
- 2 気候変動枠組条約京都議定書の発効まで ……………354
- 3 次期議定書をめぐる国際交渉の難航 ……………358
- 4 日本政府の地球温暖化防止政策の展開 ……………361
- 5 京都議定書発効後の諸政権の取組み ……………366
- 6 原子力発電と地球温暖化 ……………368

### 8-2 迷走する食品安全問題——BSEを中心に

中島 貴子……………375

- 1 食品安全問題の概況 ……………375
- 2 食品安全行政の改革と試練 ……………376

3	食品安全問題における BSE 騒動の含意	385
4	評価と展望	391

### 8-3 PCB 廃棄物の処理問題

岡村 里恵 外川 健一……………395

1	PCB が問題視されるに至った経緯	395
2	契機となった地球サミットと POPs 条約	398
3	PCB 処理体制の概要	399
4	JESCO 体制での PCB 処理事業と地方自治体——北九州市の事例	402
5	JESCO による処理事業の概要	405
6	まとめと展望	408

### 8-4 化学物質の規制と管理

山口 まり……………412

1	世紀転換期における化学物質管理の国際動向	413
2	日本における化学物質管理政策の展開	417
3	化審法および化管法見直しをめぐって	419
4	日本における REACH への対応	422
5	産業界の自主的取組みとその課題	423
6	世紀転換期以後の化学物質管理にむけて	425

### 8-5 生態系保全と化学物質

——有機スズ化合物による海洋汚染と生物影響の事例

堀口 敏宏……………429

1	法規制と科学的知見	429
2	「化学物質審査規制法」と有機スズ化合物	430
3	有機スズによる水棲生物への毒性と巻貝類への影響	446
4	学ぶべき教訓と法規制のあり方	451

### 8-6 諫早湾干拓事業と有明海の生態系および漁業への影響をめぐる論争

菅波 完……………457

1	諫早湾干拓事業の概要と問題の所在	457
---	------------------	-----



2	諫早湾干拓事業の経過	458
3	潮受堤防閉切りと「有明海異変」をめぐる論点	463
4	諫早湾締切りによる「有明海異変」への影響を示唆する 研究報告	466
5	諫早湾干拓をめぐる社会的な対立の構造	472
6	世界的な湿地保全からみた諫早湾干拓の「開門」	475

## 8-7 電磁波安全問題——携帯電話を中心に

永瀬 ライマー 桂子……………478

1	問題意識発芽期	479
2	携帯通信かけだし期 (1979～1995年)	485
3	普及期 (1996～2000年)	489
4	リスク論争期 (2001～2010年)	494
5	コンセンサスに向けて	499

## 8-8 アスベスト問題の展開と日本的対応

村山 武彦……………508

1	アスベストの使用拡大と有害性に関する知見の蓄積	508
2	一般環境における問題の顕在化と限定的な対応	511
3	国際的な禁止措置と国内の緩慢な動き	514
4	2005年のクボタショックを契機とした救済法の成立と 既存アスベスト対策	517
5	対応の各国比較	519

## 8-9 世界自然遺産・エコツーリズムの発展と課題

小野 有五……………523

1	世界自然遺産とエコツーリズムの誕生——1990年代以前	523
2	世紀転換期 (1990年代～2000年代)の世界自然遺産と エコツーリズム	530
3	世界自然遺産とエコツーリズムの課題	544

## 8-10 廃棄物・リサイクル政策の展開——自動車を題材に

外川 健一……………549

- 1 豊島事件と拡大生産者責任の誕生 ……………549
- 2 通産省の廃棄物政策と自動車リサイクル問題への影響 ……………551
- 3 循環型社会概念の浸透とリサイクル政策の変容 ……………554
- 4 自動車リサイクル法の成立とシステムの普及 ……………556
- 5 世紀転換期日本の自動車リサイクル政策をどう解釈するか ……558

## 8-11 大規模不法投棄問題と地方自治体

藤本 延啓……………561

- 1 地方自治体行政と不法投棄問題 ……………561
- 2 大規模不法投棄問題とは ……………562
- 3 大規模不法投棄問題にかかわる法制度 ……………563
- 4 地方自治体における対応の実際 ……………565
- 5 地方自治体の果たすべき役割 ……………570

## 8-12 医療廃棄物の適正処理

串田 一樹……………574

- 1 医療廃棄物問題の可視化 ……………574
- 2 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ……………575
- 3 不法投棄 ……………576
- 4 医療廃棄物のジレンマ ……………579
- 5 適正処理に向けて ……………581
- 6 医療廃棄物処理ガイドライン ……………582
- 7 ガイドラインからマニュアルへ ……………584
- 8 廃棄物処理業界の対応 ……………585
- 9 まとめと展望 ……………586

## 8-13 環境科学振興政策とその評価

内山 弘美……………588

- 1 はじめに ……………588
- 2 1990年代後半の環境科学 ……………588

3	2000年代の環境科学政策の展開	591
4	評価と展望	594

## 8-14 大学の環境教育の進展

内山 弘美……………596

1	改組・転換と環境冠学科の拡大	596
2	大学設置基準大綱化と教養教育における環境教育の拡大	601
3	大学院重点化のインパクト——大学院レベルの環境教育の拡大	603
4	環境冠学科の卒業生の進路	604
5	まとめと展望	605

## 8-15 都市公共交通をめぐる政策と事業

宇都宮 浄人 小山 徹……………608

1	岐路にある都市公共交通——概観	608
2	大量輸送時代の終焉	609
3	交通政策の展開	615
4	路面電車からLRTへ	618
5	まとめと展望——質の向上に向けて	625

## 8-16 都市軌道交通システムの安全と防災問題

小山 徹……………628

1	地下鉄道を主とした公共交通システムの 安全と防災に関する取組み	628
2	安全と防災の技術施策とその対象——列車運行と設備全体	629
3	個々の列車運行安全に加えて総合的な防災施策の導入へ	631
4	大震災防止策としての地震警報装置と耐震補強の時代	633
5	列車運行の安全と 都市防災強化（火災防止から水害対策）の時代へ	634
6	乗客の安全を常時確保する諸施設の整備	637

